

令和7年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
12	川崎市立南河原中学校	宍戸 毅

学校教育目標	今年度の重点目標
「自己を省みて 日々に新たなれ」 1. しっかり勉強をしよう 2. 美しく豊かな心をもとう 「思いやりの心をもとう」 3. 進んで正しい言動をとろう 4. からだを鍛えよう 5. 人のために役立つ	一人一人を大切にした教育活動の推進 1. 人権尊重教育を基盤とした心の教育の実践 2. 基礎・基本を大切にする教育の推進 3. 健康・安全教育の推進 4. 開かれた学校づくりの推進 5. 生徒の主体的・協働的な活動の充実

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 人権尊重教育を基盤とした心の教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒に応じた支援と育てる生徒指導。 いじめや暴力をゆるさない環境づくり。 思いやりの心を育む日頃からの声掛けや励まし。 不登校生徒への支援の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業や総合的な学習の時間の学びを通して、心を育てる授業を実践した。 個々の生徒にきめ細かい対応を心掛けている。学習支援室を活用しながら、個に応じた対応をしている。 積極的に声掛けを行い、教師と生徒の信頼関係の構築に努めた。 卒業期に外部から講師を招き、講演会を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 失敗や挑戦ができ、受け止めてもらえる安心感が得られるよう、肯定的・前向きな言葉かけをする。 UDの視点に基づいた授業展開、GIGA端末を用いた個別最適な授業を研鑽していく。 引き続き人権尊重教育を基盤とする教育を実践するための、研究研鑽に努める。
2 基礎・基本を大切にする教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 学習の振り返りと学習目標の明確化。 主体的、対話的な深い学びの指導計画の立案と実践。 校内授業研究を通じた授業改善の充実。 個別最適な学びと協働的な学びを実践するためのGIGA端末の有効活用。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の目標を明確化し、見直しをもった授業展開となるように努め、主体的な学びにつなげることができた。 全学年全教科でGIGA端末を取り入れた授業を研究発表し、授業改善に取り組んだ。 学習状況調査の結果分析を活かし、授業を見直した。 	<ul style="list-style-type: none"> GIGA端末を効果的に使いながら、主体的・対話的な深い学びの実践をさらに研究していきたい。 評価に関する理解を深めるため、職員研修実施を検討する。 生徒一人一人の学習状況や困り感をチームで共有し、支援にあたる。
3 健康・安全教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 学級経営の充実と生徒活動の活性化 体力向上の実践 規範意識の向上と生徒の問題行動への組織的な対応。 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつや身だしなみを整えるなどの基本的な学校生活への意識が高い。 安心で安全なクラスづくりを目指し、生徒の問題行動には、チームで対応することができた。 清掃活動に意欲的な生徒も多く、学習環境づくりにつとめた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ヒヤリハット」の事例を共有するなど、教職員の安全への意識を高める。 睡眠不足による体調不良や朝食欠食の生徒も見られるので、学校だよりや保健だよりなどで、家庭の協力を得られるようにする。
4 開かれた学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域が参加しやすい学校行事の展開と積極的な学校公開。 学校だよりやHPの充実。 地域活動への積極的な参加。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育祭やふれあいバザーなど、学校行事に積極的に参加し、支えてくれる保護者が多い。 お便りや配布物は紙を減らし、ミマモルメやHPを少しずつ増やすことができた。 合唱コンクールや授業・部活動体験などで、小学生と交流ももてた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の精選と、1年間を見通した年間計画の作成を心掛け、早めに保護者に通知していく。 学校HPをさらに活用できるようにする。 引き続き小学生・中学生両方で取り組める活動を発展、充実させていく。
5 生徒の主体的・協働的な活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動及び委員会活動の充実。 生徒の手による校則の一部見直し。 実行委員主体の学校行事の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や生徒会活動の中で、生徒主体に企画・運営し、活動する場面が多く見られた。 身だしなみ等のルール変更を生徒総会を通じて、自分たちの意見を出しあって行うことができた。 委員会や実行委員会など、各場面でリーダーが中心となり、一生懸命活動する様子が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> より一層の生徒朝会の充実を図り、各種委員会の活性化を促す。 地域教育会議で話した内容や、学校運営協議会での生徒の意見を、全体でも共有し、改善できるところはつなげるようにする。
6 働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画、週時程の見直し。 データの移行、クラウド化。 会議等の精選。 	<ul style="list-style-type: none"> 校務のDX化に伴い、業務の削減につながった。 時程の見直しによる、放課後の時間の確保。 印刷物の削減、会議時間の短縮を試みた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒も教職員も心身にゆとりをもてる状態での活動を充実させるため、引き続き年間予定や時程の見直しを行う。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> 学校全体の雰囲気落ち着いている。 学校のリーダー達が、常に問題意識を持って行動している。 学校行事での生徒の様子が生き生きしている。 GIGA端末の活用が進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学校生活に対する意識は高く、日々充実した生活を送ろうと心がけている生徒が多いと感じる。 人に協力したり、自分や他人の良いところに気づこうとする生徒も多くなる。 学習のつまづきや授業への遅れを感じ、学校生活の居心地の悪さを感じている生徒もいるので、これからますます、個々の状況に応じた支援が必要となってくると感じる。